

2018年1月吉日

## NYC2018 マンツーマンディフェンス推進への対応について

埼玉県ミニバスケットボール連盟 西部地区

地区責任者 鈴木 康司

地区推進委員 浜田 智一

地区技術委員会 佐藤 昇

### 「西部地区」としてのNYC2018におけるMC対応方針

- 1) 埼玉県ミニバスケットボール連盟の対応方針に基づき推進していく。
- 2) 各チームは推進の趣旨を十分認識し、マンツーマン推進に取り組んでいく。
- 3) NYC準決勝リーグ以降のコミッショナーはチーム帯同で対応とし、技術委員会スタッフは状況に応じ、サポートにあたらせて頂きます。※レフリーへのリスペクトと同様にMCに対し、高圧的な言動などをせず、選手を育てるのと同様にMCを育て、マンツーマンを推進していく事へご協力をお願いします。
- 4) **ブロック内の予選においても**コミッショナーを設置し、共通認識の広く浸透を図ることを目的とし、また、罰則の適用を行う事とする。
- 5) **マンツーマンディフェンスを行わないチームは、上位大会に推薦しない。**

### ☆マンツーマン留意事項

- ☞ マンツーマン推進に取り組んでいくにあたり、JBAホームページ「マンツーマンディフェンスの推進」に必ず目を通してください。関連資料・動画などがすべて掲載されています。  
[http://www.japanbasketball.jp/players\\_development](http://www.japanbasketball.jp/players_development)
- ☞ マンツーマンディフェンスの基準に関しては「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則るものとする。（2017/12/9改訂版を適応。下記、参照。）
- ☞ **■マンツーマン推進の運用における変更点**

#### 【変更内容】

①、②はU15(中学)カテゴリーのみ、③はU12(ミニ)・U15(中学)カテゴリーの両方において変更する。

①「マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレイとコミッショナーが判断した場合は、基準規則違反とは見なさない。」 ⇒U15(中学)カテゴリーのみ

#### <補足>

- ・「予測に基づく」とは、予測の根拠となる動きがあることを示す。
- ・マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。

・ミニバスケットボールにおいては本内容は適用しないが、下記③の通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。  
※U15(中学)年代では、バスケットボールの経験値、技術、バスケットボールの理解度も上がることから、選手自身の予測を伴うプレイを許容する。但し、U12(ミニバスケットボール)年代では、バスケットボールを学ぶ入口であることであり、基礎を身に付けることが優先であるため適用しない。

②「ボールを保持しているプレイヤーへのトラップは許される。」 ⇒U15(中学)カテゴリーのみ

<補足>

・U15(中学)年代では、ドリブルの有無、ボールマンへの距離に関係なく、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。  
・但し、マンツーマンディフェンスを行なっている中でトラップすることが前提であり、トラップ解消後はマークマンに戻らなければならない。

③「制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。」 ⇒U12(ミニ)・U15(中学)カテゴリー両方

#### ☆コミッショナー留意事項

- ☞ コミッショナーに関しては、「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について」に則るものとする。
- ☞ 予選リーグについては、1チーム1レフリー同様に1チーム1コミッショナーで帯同する。指導者だけでなく保護者へも理解を深め、子供達のスキルアップに繋げる取組みであることを理解しチーム内で共通認識を深めて、コミッショナーの人材育成にも取り組んでいってください。
- ☞ 会場責任者は「黄色旗」と「赤旗」を準備してください。（持ち寄りでも可）併せて「マンツーマンコミッショナーチェック表/報告書」を試合毎に準備する。  
※違反行為や報告が必要な事があれば、推進委員会へ報告書を提出してください。
- ☞ コミッショナー席は試合が見渡せる場所（TO席側が望ましい）とする。  
コミッショナーの人数は1名または2名とする。コミッショナーはレフリーと密に連携を取り、必要に応じてコーチともコミュニケーションを図りながら、円滑に試合を進めるように努める。
- ☞ コミッショナー設置の主な目的は、試合における違反行為を取り締まることではなく、マンツーマンディフェンスに対する理解を推進し、円滑に試合運営を行い、より子供達がバスケットボールを楽しめる環境を構築すること。  
体力、技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意すること。

以上